

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 4月 4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3490200312		
法人名	特定非営利活動法人 もちもちの木		
事業所名	グループホーム 古田のおうち		
所在地	広島県広島市西区古江新町8-32 (電話) 082-272-2701		
自己評価作成日	平成23年3月8日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490200312&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490200312&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成23年3月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、それぞれの生活歴や日常生活、楽しみや喜ばれたこと等を大切にすることを心がけて、暮らしていただいています。  
元倉庫だった建物をグループホームとして利用していますので、大きな吹き抜けで解放感があります。各部屋に使い慣れた家具等を持ってこられています。お風呂は一人用の小さなお風呂です。食事はスタッフと利用者さんと毎日作ります。リビングでは、洗濯物をたたんだり、テレビをみたり、歌をうたったり、それぞれが普段の暮らしを楽しまれています。  
利用者みなさまほとんどが、近くに住んでおられた方です。ご家族や親せきの方が毎日のように気軽に来られています。当グループホームで最期まで過ごしていただけるよう、入所時に話し合い希望に添えるように体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中にあり近くには、スーパーやレストラン・美容院や病院があり、散歩に出かけ楽しく過ごして頂ける環境にある。事業所は理念として「やさしい心迷ったり探さぬようそばにいるよ」を理念に掲げ、家庭的な生活環境で残存能力を活かした生活や尊厳のある生活を目標としている。地域社会とのつながりを重視し関係市町村・地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、職員は利用者一人一人と向き合いその人の個性や思い希望有する力などの現状の把握に努められその人に合わせた対応や支援をし利用者は安心して落ち着いて過ごしている。利用者一人一人の活躍できる場面作り日々の暮らしを楽しみながら張り合いや喜びのある日々が過ごせるように工夫している。高齢者を支える社会資源や地域住民の応援団として1階のパブリックスペースを住民に無料開放し歌の練習をしたり子供たちがミュージカルを演じたりしている。

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>「やさしい心 迷ったり探さぬよう そばにいるよ!!」を理念にかかげ、生活歴やその人らしい暮らし、不安にならないような居場所づくりを大切にしている。</p>	<p>利用者の意志を尊重し、自立した生活を送れるように地域福祉の構築を目指し「やさしい心 迷ったり探さぬよう そばにいるよ!!」を理念に掲げ、実践に取り組み、常に職員は、入居者お一人おひとりの支援のあり方について考え、理念をふまえて毎日の業務に対応している。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>地区社協の常任委員として会議や行事に積極的に参加している。また、併設してある交流スペースを、町内会や老人クラブ、子供会等の集いの場として開放している。事業所を見学して頂いたり、事業所だよりを町内会に配付するなどして、理解を得られるよう努力している。</p>	<p>地元の古田交流プラザの「ふれあいサロン」に交流に出かけたり多世代交流広場を運営し園芸ボランティア活動で地域の方に来ていただいたり、中庭を活用した乳幼児の遊び場提供(子育て支援)、民生委員、児童委員会協議会などとの連携で赤ちゃんボランティアによる利用者とのふれあい等集いの場、交流の場として地域の方々と交流している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>地域包括支援センターと連携を図り、認知症サポーター養成講座等を開催している。また、地域包括と地域住民と共に「認知症になっても安心できるまちづくり委員会」の立ち上げを準備している。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>地域の人からの意見・評価や支援助力も活用しながら、会議の内容をより充実したものにしている。</p>	<p>社協会長、民児協会長、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、認知症と家族の会世話人、地域医師会会長、学区福祉推進委員、管理者、職員、家族代表、利用者が参加し、2ヶ月に1回定期的に開催している。事業所から行事予定や報告、研修報告をし参加者と意見交換し、意見・要望等取り入れサービスの向上に役立てている。</p>	
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>各種報告書や提出書類を持参したり、質問や確認事項を問い合わせるなどして、顔のみえる関係づくりに努めている。</p>	<p>市の介護保険課、地域包括支援センターと交流を積極的に行い、様々な課題について意見交換や情報の収集を行い良好な協力関係を築くことで、利用者へのサービスの質の向上につながっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修に参加して理解を深め、職員会議等で報告したり話し合ったりして、各スタッフも理解し、心をつなげて、身体拘束が行われないよう防止に努めている。</p>	<p>身体拘束について担当者が資料作りを分担し研修を行ったり、外部研修に参加したり、職員の理解を深めるように工夫をしている。鍵をかけないケアの大切さを理解し玄関も、隣接するデイサービスへの出入り口も開錠している。職員が利用者をコントロールするのではなく、利用者のその人らしいペースを守りながら、日々のケアがなされている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修に参加して理解を深め、職員会議等で報告したり話し合ったりして、各スタッフも理解し、心をつなげて、虐待が行われないよう防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			実施状況	実施状況
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加して理解を深め、職員会議等で報告したり話し合ったりして、各スタッフも理解し、サービスを利用している人への理解やよりサービスが活かせるような支援ができるように努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族も高齢であったり、理解が難しい方もいらっしゃる。なるべく大きな字で書類を作成したり、わかりやすくゆっくり説明し、質疑応答を受けるなどの努力をしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から、家族との連絡を密にとることにより、苦情等も言ってもらいやすいような雰囲気作りに努めている。また、外部者への連絡についても、書類に相談先を記入するなどして紹介している。	利用者の家族は地域の方が多く、頻りに面会に来られ、来訪時には日々の様子をお話しし意見・要望等直接伺い、日頃より意見が言いやすい関係作りに努めている。相談苦情の受け付け体制、外部機関の明示、苦情処理手続きの周知をすとも家族等の意見を運営に反映できるように取り組んでいる。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者・管理者は常勤で同じ建物に努めているため、日々、気軽に意見や提案をきけるような雰囲気づくりを行っている。年齢・経験を問わず、良い提案はみんなで取り組んでいる。また年4回全体会議を開き、意見・提案等を協議している。	管理者の考える理想に共感し、押し付けではなくスタッフそれぞれが努力をされている。管理者は、日頃から職員が随時疑問や意見を持つ際、気軽に相談や話し合いにに応じている。また年4回全体会議を開き出した意見や要望・提案を検討して運営に反映している。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	互いに協力し合い、各々の基本的な業務だけではなく互いのサポートを行っている。利用者や家族の状況を考慮し、臨機応変に勤務できるような対応をしている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員に常に情報や研修内容を知らせ、参加を促すと共に、その報告を会議で行い、皆で共有している。互いの得手不得手を判断し、慣れない事は慣れている者が訓練し互いのスキルアップに努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者と定期的な交流ネットワークをたちあげており、情報交換や勉強会を実施している。イベント等の催し物では全員に役割分担をし、上記のように互いで補い合う等サービスの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			実施状況	実施状況
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>担当している入居者を中心に、他の入居者へのサービスについても複数の意見を用いる事によりサービスの質の上昇を心掛けている。本人に出来る事はなるべく行なって頂き、手伝わさせて頂くことで本人の身体的、精神的な状況の維持に努めている。</p>	
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の希望、本人の希望双方に耳を傾け互いに取って良好な関係を築くようにしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>日ごろから家族に小さなことも報告し連携を高めている。「その時」必要なことを常に話し合っサービスに努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人の得意な事(盛り付けや食後の食器拭き等)を手伝って頂き、本人の自尊心を損なう事無く、また互いに(入居者間、入居者と職員間)会話やイベントを通じて信頼関係を築いている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の方が来られた時、積極的に会話等を行って頂き、それだけではなく希望があれば職員と共に身体的な介護、食事の準備等に関わって頂いている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご家族の方との会話、近隣の方ならば外出時の出合いを大切に、ほぼ毎日のように来訪者がある。</p>	<p>地域がほとんど馴染みの関係にあり、隣接のデイサービスに来られた方が訪ねてきたり、子供達や赤ちゃんボランティアの方、近所の方がふらっと訪ねて来られて居室でお茶を振舞ったりして自宅にいるように過ごしている。また近所に散歩に出かけ顔見知りの方と立ち話をして馴染みの方々と関係が途切れないように努めている。</p>
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>パブリックスペースで食事を取って頂いたり、季節季節のイベント毎に出かけたりと関わり合いを取って頂いている。関係づくりが困難の場合は職員が緩やかに関わり改善を行っている。</p>	
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>常に利用者や家族とは、未永い関係を大切にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			実施状況	実施状況
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望を大切にしている。意思の表出が困難な利用者も、家族の意見や本人の生活史を参考にし、出来るだけ本人が良い思いで暮らせるように意識関わっている。	日々の関わりの中で言葉や行動・様子から思いや意向の把握に努め申し送り簿や介護記録に記入し職員で共有し、おひとりお一人に応じた支援ができるように努めている。困難な場合は家族に相談後に職員間で本人本位に検討している。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者のバックグラウンドを重視し、個人の理解へ努めている。本人の生活リズムや交友関係を乱す事無く、こちら側の都合を押し付けないように関わらせて頂いている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の状態を常にITにより管理・情報の共有を行っている。本人の意思を尊重し、出来る事の維持による身体的、精神的な状況の保持、歩行訓練や排泄時の姿勢保持による筋力の維持などに努めている。	
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人からの意志をくみ取りにくい場合は、毎月のモニタリング会議により、意見交換・反省等を行い、話し合ったことは家族に伝えている。家族にはありのままの情報を提供し、家族からの意見や情報を頂きケアに生かせるように考えている。職員同士で入居者の状況を見、互いの意見を交換することによって偏らないケアを行っている。毎月のモニタリング会議により、ケアの見直し等を定期的に行うと共に、緊急時のケアの見直しも臨機応	日頃の関わりの中で把握している利用者の思いや意向、電話や面会時に聞き取った家族の意見や要望を参考にし、毎月のモニタリング会議に職員全員で検討している。それぞれの意見を反映して介護計画を作成し、家族へ了解を得ている。また利用者の状態変化に応じて、その都度介護計画を見直している。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別で日々の記録を残し、スタッフが毎日チェックを行っている。毎日情報をITにより共有し、常に個別ケアを回している。本人の様子と介護状況がわかるようデータを入力している。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	当法人は、小規模多機能的な事業運営をしており、デイサービスや地域交流広場の利用からグループホームへの入所を検討いただいたり、入所時の逆デイサービスの利用や、個別の手助けを有償サービスで対応していくなど、多彩な支援を行っている。入居者のご家族の方との関わりや地域ボランティアの受け入れ等によって気分転換を図ると共に、日々と異なるイベントで楽しんでも頂いている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域ボランティアや地域の人との触れ合いを重視し、デイの人が入居者側、逆に入居者側がデイの人に関わりを持つ事で、心身の充実を図っている。	
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれの馴染みのかかりつけ医師を継続できるように連携し、支えてもらうことで家族にも安心感をもって頂いている。月に何度かの受信および往診を行う事によって健康を保って頂いている。また特別な場合は家族の方と相談し対応している。	入居時に医療機関の希望を確認しかかりつけ医を決め以前のかかりつけ医を継続されている利用者もいる。お一人おひとりの利用者の必要に応じて受診し職員が同行し診察結果を家族に報告している。歯科医の定期的な訪問もあり協力医は夜間の緊急時の対応も可能で安心して暮らせる体制ができている。

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常生活のみならず排泄時や入浴時等普段は見えない場所での変化等を見つけた場合、看護師に報告し対応をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族をはじめ、入院先の機関との連携に努めている。家族の方を通じ、また病院関係者との連絡を密にし状況の変化等の把握に努めている。必要な治療が終わり次第、受け入れるように退院前に、病院関係者、主治医、訪問看護、ケアマネ等で退院にむけての協議の場をもつようにし体制を整えている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りについての話し合いをおこなっている。医師、訪問看護等との協議を密にし、職員もその内容を理解することでターミナル期へ向かった意志確認をおりにふれ再度行っている。入所者の高齢化・重度化が進み、今後ターミナルケアへの取り組みが望まれるところである。医師、訪問看護等との連携を今以上に密にし、体制整備に努めていきたい。	看取りについての方針は、入居時に家族に説明し、入居者の急変や体調不良時には、かかりつけ医・訪問看護等と相談し、家族に相談・意思を確認することになっている。職員もホームの方針を共有し、ターミナルに関する勉強会を開いてスキルアップに努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変の場合は医師の指示を受け、救急車を手配、病院へ職員一名を伴い搬送、同時に管理者、ご家族の方にも報告している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域住民と共に避難訓練を行い、報告すべき場所や機器、消火器の使い方などについて研修を行っている。	年2回消防署員指導の下で通報・消火・避難訓練を実施している。避難訓練については、運営推進会議でも話し合い、災害時には地域の方の協力が不可欠であり、地域の方の参加をお願いする為に回覧版を回して頂き、地域住民も参加し避難訓練を実施している。	夜間想定避難訓練ができていないので、次回の避難訓練での実施を期待いたします。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いに気を付け、人生の先輩に対する敬意を忘れずに声かけをさせて頂き、同じ視線から会話をし、親しい仲にも礼儀ありの実践。記録はインシナルで行い守秘努力をしている	プライバシー保護については、経営者が特に大切にしている部分であり、家族や外部者が聞いても違和感のない声掛けを心掛けている。職員間で注意し合ったり、自身の言葉かけを振り返るなど、職員一人一人が、常に意識し対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思確認できる人には自己決定して頂いている。意思疎通が難しい方にも、できるだけ納得していただけるように努力してご本人の希望に沿うよう行動し、どうしても実現不可能な場合は本人が納得されるまで説明させて頂く		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個別のタイムスケジュールをくみ、各人のペースを重んじている。本人の生活ペースを乱す事無く過ごして頂き、食事や排泄等も自然に促すよう声かけをさせて頂く。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			実施状況	実施状況
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の所有されている化粧品や服装等でおしゃれをして頂き、どうしても危険な場合(異食など)が予想される場合は安全な物に交換させて頂く。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	常に一緒に食事作りや片づけを行い、食事のみならず、日常生活の中の営みとして楽しみながら行っている。食事内容については、スタッフが常に栄養、食べやすさ、好み、彩り等考えて切磋琢磨しているので、利用者からも毎日喜ばれている	毎日職員と利用者と一緒に近所のスーパーに食材を買い出しに行き、一緒に献立・カロリー等を考えて手作りで調理している。個人の力量・気分に応じて、できる範囲で、準備・調理・後片付けなど参加できるように取り組んでいる。職員も同じテーブルで同じものを食べ家庭的な雰囲気を大事にしている
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の食べやすいような量、大きさに盛り付け、必要ならば刻み食等にも対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事後に洗面所にて個人個人の歯ブラシによって口腔ケアをさせて頂いている。他の方との混同を避けるために本人に直接手渡している。	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツはずしを実践できるように、記録をつけ、時間ごとにトイレ誘導を行ない、いつも気持ちよく生活できるよう排泄の支援をしている。	お一人おひとりの排泄チェックシートを活用して、排泄パターンを記録することにより利用者一人一人の尿意・尿量を把握し、可能な限りトイレでの排泄が気持ちよく出来るように支援している。リハビリパンツやパット等を使用しながら時間を見計らって声掛けをし個別の対応を心掛け自立に向けた支援を行っている。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一時間ごとの水分摂取やホットミルク、ホットパック、排泄時のマッサージ等によってなるべく便秘にならないように排泄して頂く。どうしても場合は下剤を服用している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個別の要望を優先させながら、最低でも2日に1回は、体調を見ながら入浴を楽しんで頂いている。当グループホームのお風呂は一人用の風呂なので、状況をみながらスタッフが入浴助を行い、プライバシーの確保にも努めながらゆったりと入浴を楽しんでいただいている。基本的には一対一の対応だが、他の入居者と一緒に入浴したいとの希望があれば行う。	利用者の希望回数・時間帯を尊重し最低でも2日に1回は体調を見ながら見守り、声掛けを中心に入浴支援している。近隣の利用者の家族の方やお孫さんも入浴時にスタッフと一緒に見守りや声掛けに協力していただいている。入浴拒否者には、スタッフを変えたり時間を置いたり、無理強いせず、足浴・清拭にて対応している。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個別に排泄への声かけ、体位変換等を行い良眠して頂けるようにケアを行っている。また自由に自室での休息や和室での休息をして頂いている。	
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師、調剤薬局と連携し、職員側で処方箋の説明書と共に管理し、日付を確認し服薬して頂いている。また塗り薬に関しては入浴後や本人の訴えにより職員が塗布する場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			実施状況	実施状況
48		役割,楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割,嗜好品,楽しみごと,気分転換等の支援をしている。	食事前の盛り付けや配膳、食事後の食器拭き、またはイベントごとでのハーモニカ演奏や音頭取りなどご本人の得意な事、好きな事を生かして気分転換を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は玄関で日に当たったり、毎日必ず周囲を散歩をするなどして、気分を変えて頂くようにしている。また歩行訓練を玄関前の駐車場でやっている方もある。	利用者の要望・体調に合わせてお天気の良い日には近くにショッピング・散歩・買物・お花見に出かけ外気を浴びて五感の刺激を受けている。家族の協力により外食に出かけたりして、無理のない範囲で支援を行っている。お花見に利用者の家族も同伴で御弁当を持参で出かける予定が計画されている。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日々の食材の買い物に出かけるとともに、いつでも出かけたときにスタッフ間で調整して付き添って支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	基本的にはご本人の意思に任せているが、代筆や取次ぎ等、必要があれば家族の方と相談し決める場合もある。	
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各部屋のドアの色やカーテンを変えている。花壇や中庭に季節の花を植えていつでも鑑賞できるようにしてある。パブリックスペースの本棚は家庭的なしつらえのものにしてある。	玄関には、パンジーや色とりどりの季節の花々が飾っており、利用者や訪問者を暖かく迎えている。リビングには壁画が飾っており、床暖房になっていて、また天井が高く開放的であり、建物の中間に中庭があり外光が明るく取り込まれ居心地の良い空間作りに努めている。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者や食事がとれるように席の配置を配慮している。又ひとりでも和室やソファなど気ままに過ごせるような空間を演出してある。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の馴染みのある家具などを配置し、在宅で過ごされた部屋に出来る限り近づけ、暮らしやすいように配慮している。本人の希望により配置換えをすることも有る。	居室の中には慣れ親しんだ家具・仏壇・人形・写真・日用品等が持ち込まれており、カレンダーや自分で手掛けた作品などが飾られていてその人らしさを感じられ本人が居心地良く過ごせるように工夫している。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりやアコーディオンパーテーション、つかみやすいドアノブ、バリアフリーの床を用いて安全に日々が過ごせるように配慮している。	



グループホーム 古田のおうち

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム 古田のおうち

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> たまに <input type="checkbox"/> ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> 職員の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> 家族等の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム古田のおうち

作成日 平成 23年 3月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	27	記録を実践に反映していない	会議のあり方を検討する周知の方法	議事録を活用しミーティングで周知していく	6か月
2	35	夜間スタッフが一人であるための対応が充実していない	全スタッフが避難できる方法を身に付ける	夜間を想定した訓練を行う	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。